

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	盛岡南整備課
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	金澤 隆 内線 7240
小施策	26-8	既成市街地の再整備	評価 シート 作成者	小笠原 雅彦 内線 7141

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
土地区画整理事業については、事業の見直しを行い、事業進捗を図るとともに、並行して、関連する狭あい道路解消や上下水道整備等の住環境改善を早期に進める必要がある。また、市街地再開発事業については、中心市街地活性化に資する施設整備が求められている。		既成市街地における公共施設等の整備改善を図るため土地区画整理事業や生活環境整備事業を実施するとともに、中心市街地における良好な市街地環境の創出や土地利用の適正化を図るため再開発事業を推進し、人がにぎわうまちづくりを進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
既成市街地, 太田・道明・都南中央地区の土地区画整理事業地区及び生活環境整備事業地区		土地と建物の再整備により生活環境の向上が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 既成市街地に整備された拠点施設数(累計)	棟	↗	・(仮称)新盛岡バスセンター整備基本計画を策定した。 ・整備水準の検討を行い、設計・施工に係る事業者を選定した。 ・事業を具体的に進めるための検討を実施した。	⇒	・整備基本計画を策定して、計画に基づき事業の具体検討を進めた。
当初値 (H25)	8				
R1目標値	11				
R6目標値	13				
問題点			⇒		
・優良建築物等整備事業は、補助金の1/2は市の一般財源からの支出であり、財源負担が大きく複数地区の同時施行は実施できない状況である。			・近年、補助金交付額が大きく上昇している。事業費の上昇よりも補助金額の上昇が大きくなっており、建物解体費及び補償金が上昇していることが要因と考えられる。		
指標② 面整備による生活環境整備率(整備済路線延長/整備計画路線延長)	%	↗	・整備済み延長が増加した。 ・上下水道等の住環境整備や宅地造成が進み、住宅や店舗等が建設された。 ・定住人口が増加した。 ・市街地の再整備が進んだ。	⇒	・土地区画整理事業や生活環境整備事業の実施により、良好な生活環境整備や企業の事業整備の進捗が図られたことが要因と考える。
当初値 (H25)	29.0				
R1目標値	63.0				
R6目標値	97.0				
問題点			⇒		
・進捗が遅れている。			・必要とする予算の安定的な確保が困難となっている。		

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★ (仮称)新盛岡バスセンターの設計及び建設に着手する。	
★ 確実な予算確保のため国や県への要望活動を引続き行う。	
★ 都南中央第三地区は、新たな国費メニューとして個別補助制度「都市構造再編集集中支援事業」に移行し、事業費の確保に努める。	
★ 移転交渉難航者の影響により、最大4年以上にわたり長期中断移転中の複数の事業協力地権者に対し仮換地の引き渡しを実現するため、令和2年7月末を目途に交渉難航者の自主移転の是非を確認し、適わない場合は施行者による直接施行により移転及び除却を実施する。	
★ 工法や換地設計の見直しなどによる事業費の圧縮等による実効性のある事業計画へ変更する。	